



令和元年10月21日

研究主題 「考えることを楽しむ！」

～文教大学附属小学校型 ディープアクティブラーニング
 学びの深化を目指して「自分の考えをもち、伝え合い、高め合う力を育む」～



令和元年10月21日(月)、今年度第4回目の校内研究授業を行った。第4回目は、1年2組 飯尾太一教諭が『かたちあそび』、4年生は、『面積のはかり方と表し方』を河野里佳、濱崎ひかる、佐野彩香教諭が少人数の3クラスに編成して行った。

飯尾教諭は、身近な箱や筒、缶などの具体物を用いて、なかまわけをすることを通して、形の特徴や機能について考える授業を行った。子どもたちは、なかまわけをするという課題に対して、前時までの『タワーづくり』『電車づくり』の学習を通して、高い意欲をもって取り組んでいた。また、身の回りにある形を使うことによって、子どもは自分の言葉を使い、形の特徴を捉えてなかまわけをすることができていた。

4年生は、既習の長方形、正方形の面積の求め方を活用し、長方形を組み合わせた図形の面積を求めるといった授業を展開していた。子どもたちは、長さの書いていない図形の面積を求めするために、どんな条件が必要かを班ごとに考え、どのように面積を求めればよいかを話し合っていた。また、班ごとに考える時間があることによって、既習事項を活用しながら、図形の面積を一人一人が考えられる授業だった。



研究協議会では、授業・人塾の田中博史先生を講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評をいただいた。

講評では、授業の中で、視点を変えて物事を見ることができる子を育てることが大切だと教えていただいた。自分の考えにこだわりを持つことはもちろん、他の子がどのように答えを導き出したかについても考えることで、議論に発展し、より理解が深まるとお話しいただいた。また、個に合わせたハードルを設定したり

、子どもの様子を見ながら授業を展開したりすることによって、子どもたちが失敗を恐れずに活動や発言ができる環境へとつながり、みんなでより深い学びへと昇華することができるようになることと教わった。

今回教えていただいたことを、これからの授業に生かしていきたい。

